

松山大学法学部学術研究会

演題：Eduard Spranger in Japan

講師：Prof. Dr. Reinhard Mehring (Pädagogische Hochschule Heidelberg)

講演概要

エドゥアルド・シュプランガー（1882-1963）は、戦間期のベルリン哲学を代表する思想家であり、教育研究のみならず、プロイセンの学校制度改革など、公的・政治的な実践にも関与した。1936年から37年にかけて、客員教授として日本に滞在したが、それはナチス政権に対する彼の批判的な立場が起因ともなった。本講演では、シュプランガーの日本滞在に焦点を当て、同時期に日本に滞在したカール・レーヴィットの日本理解とも比較しながら、戦前期の日独文化交流の実態に光をあてる。日独の対外的支配の拡大を「文化」によって正当化したシュプランガーの議論を再検討する試みは、植民地主義をめぐる今日的な文脈においても時宜を得たものといえよう。

コーディネーター・通訳

松山大学法学部教授 遠藤 泰弘

日時：2024年 9月 23日(月)

16:00～17:30

入場無料・参加自由

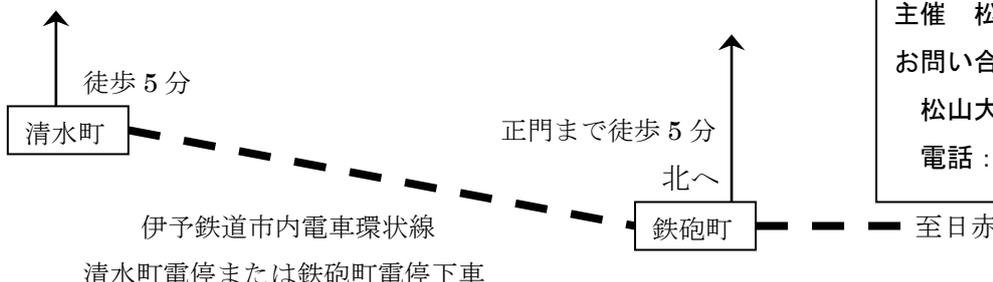
場所：松山大学 東本館 7階会議室 2



講師：ラインハルト・メーリング教授の略歴

1959年ドイツ・デュッセルドルフ生まれ、ボン大学・フライブルク大学で哲学・ドイツ文学・政治学を専攻、デュッセルドルフ大学、ヴェルツブルク大学、ベルリン大学で研究員・助手・講師などを経て、2007年よりハイデルベルク教育大学教授

著書— Carl Schmitt. Aufstieg und Fall. Eine Biographie, Beck-Verlag, München 2009, 743 S. (englische Übersetzung Polity Press 2014)
共編著—Der Staats- und Völkerrechtler Carl Bilfinger (1879-1958). Dokumentation seiner politischen Biographie, Nomos-Verlag, BadenBaden 2024 他多数



主催 松山大学法学部

お問い合わせ先

松山大学教務課 法学部担当

電話：089-926-7137 (直通)